

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

マクロ経済学の内容や基本的事項について、現在の日本経済・金融の問題（長期経済停滞・アベノミクス）や世界がかかえる問題（米国トランプ大統領の経済政策及びFRB議長・ECB総裁の金融政策、EUの経済・新興国問題）を踏まえながら、日本経済の発展に深く関わる日本政策投資銀行（元・日本開発銀行）の設備投資研究所における研究・実務経験に基づいて詳しく講義します。GDP、インフレ/デフレ、財政政策、金融政策などの基礎知識及び主要なテーマについて経済学の分析ツールを使って日本や世界のマクロ経済を観察できるようにすることを目的として講義をすすめます。講義の理解を深めるために、毎回その日の復習としてライティング（ミニットペーパーと呼びます）をおこないます。

授業計画

第1回	授業全体についてのオリエンテーション：マクロ経済学とは？ ミクロ経済学との違い？ 授業の進め方、など。
第2回	マクロ経済学の目的：成長/失業/インフレ（デフレ）など
第3回	各国のマクロ経済の現状：日本/アメリカ/EU/新興国/途上国のマクロ経済の過去と現在
第4回	GDPを理解する：GDPの構成/算出/名目と実質/デフレーターなど
第5回	失業と貨幣とインフレーション（デフレ）について：入門編・応用編
第6回	国際貿易と自由貿易協定（比較優位・関税の役割と障害・国際収支統計・WTOの役割）
第7回	ケインズ及び現代のマクロ経済理論について：古典派/新古典派/マルクス経済学/市場原理経済/社会主義市場経済などと何が同じで何が異なるのか？
第8回	世界の金融システム：銀行市場と資本市場・IMF/世界銀行の役割・ユーロ圏通貨統合など
第9回	総需要と総供給：短期と長期の部分均衡/一般均衡・IS-LM分析のフレームワーク
第10回	マクロ経済に対する財政政策と金融政策：IS曲線/LM曲線を理解する
第11回	資本移動自由化（変動為替レート）におけるマンデル=フレミングモデルの仕組みと効果
第12回	経済恐慌とIS-LM曲線：大恐慌・リーマンショックに対する財政金融政策とその効果
第13回	グローバル経済におけるマクロ経済政策：変動為替制度・自由化された資本移動下におけるモデルの使い方を理解する
第14回	日本の経済停滞とマクロ経済政策：財政/金融政策の内容とその効果
第15回	全体のまとめ・質問と回答
第16回	定期試験

到達目標

マクロ経済学の主要な用語や分析ツールを理解して経済新聞や経済雑誌のマクロ経済記事を理解できるようにし、実務界に於いてどのような分析を行っているかを説明しますので経済学の理論が実際の経済とどのような関係があるのかについて理解できるようになることを目標とします。

履修上の注意

「ミクロ経済学」も履修・勉強してください。本授業のための専用ノートを用意して講義内容を記録し、講義内容と関連する新聞/雑誌記事などを切りぬいて貼り付けておくことを勧めます。なおファイルケースを用意して授業時の配付資料などを時系列に綴じてください。遅刻は減点になります。

予習復習

予習項目と復習項目を授業時に指示します。ときどき宿題を出しますので翌週に必ず提出してください。

評価方法

定期試験60%、授業内レビュー・ライティング（ミニット・ペーパー）等40%

テキスト

- 教科書名：『入門マクロ経済学：大きくつかむ経済学のエッセンス』
 - 著者名：小林 弘明
 - 出版社名：実教出版
- レジメ・テキストは授業開始時に、その他のプリント資料は授業時に配布します。